

「第15回アラブ人学生歓迎プログラム ASP2016」

総合政策学部3年 齋藤 夏海

1. 内容

「アラブ人学生歓迎プログラム（以下ASP）」は、奥田敦研究会が主催して、アラブ諸国で日本語を学ぶ学生を約2週間慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）に招待し、SFCでアラビア語を学ぶ学生と共に行う、アラブ・イスラーム圏との学術交流である。

15回目を迎えた今回は、10月30日から11月13日まで、「アッサラーム～共に作ろう『大きな平和』～」を全体の統一テーマとして、シリアとモロッコから計4名の日本語学習者を招聘して行われた。

日本語による個別の研究レポートの作成や日本語ビデオスキット映像の制作のほか、アラビア語によるディスカッションや授業、着付けや茶道をはじめとする日本文化体験、東京・鎌倉・富士山への小旅行などを行った。

「作りながら学び、学びながら作る」というコンセプトのもと、実践的な活動の展開が、単なる相互理解にとどまらず、自分たち自身の変化への努力を通じて、互いに共有できるものを探究する契機となり、日本とアラブ、さらにはアラブ人同士の良い関係を作るプログラムとなることを目指して活動した。



日本語レポート最終発表会後の集合写真



奥田先生と、着付け体験中のアラブ人学生

2. 目的

近年、移民問題、難民問題、テロなどの報道が相次ぐ中で、世界各地でイスラモフォビアの風潮は高まり続けている。日本でも、海外からのイスラーム教徒観光客が増加し、誤った情報や偏見によって生じるトラブルが絶えない。このように、今日あらゆる局面において、イスラーム世界との平和裏の共生が全世界的な課題となっている。そのような状況をふまえ、本活動では、「平安・平和」と訳されるアラビア語「アッサラーム」の意味をあらためて問い直すことを目的に、アラブのイスラーム教徒たちと協働で行う学術交流を通じて、人種や宗教を超えて共有できる「平和」の構築方法を探究し、その成果を提示・発信していく。

3. 2016年度統一テーマ「そして、共に歩もう」

今年度のASPでは「アッサラーム～共に作ろう『大きな平和』～」を統一テーマとする。「アッサラームアライクム（あなたがたの上に平安あれ）」の言葉は、現在世界全体で16億人を数えるとされるイスラーム教徒の日常的なあいさつである。この中で、「平安・平和」にあたるのが、「アッサラーム」という言葉だ。一方で、今日のイスラーム世界にはテロや紛争・貧困が蔓延し、人々は「アッサラーム」とはかけ離れた状況におかれている。また、世界中で声高に叫ばれる「平和」も、実は一国家、一民族の単位に留まる「小さな平和」を目指すものであることが少なくない。そんな状況下にあるからこそ、ASPの活動の根底にあり、国籍や民族、宗教などの違いを超えた「大きな平和」を指す「アッサラーム」の精神をもう一度見直したい。そして、学生同士の学び合いを通じてこの「大きな平和」を実現していきたい。そんな思いを込めてこのテーマを掲げた。

なお、本年度の活動は、神奈川県との共同事業「ムスリム接遇人材育成プログラム」の一環としても実施され、学術交流からイスラーム教徒との共生モデルの構築を实践した。

4. ASP2016の概要

日時：2016年10月30日（日）～11月13日（日）

場所：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）

参加者：・招待学生：シリア人学生1名、モロッコ人学生3名（計4名）

・SFC側：奥田敦教授（全体統括）、実行委員（奥田敦研究会に所属する院生・学部生17名）

5. 期間中の主なプログラム内容

11月1日(火) 14:15~	アラブ人学生によるアラビヤ語ミニ講座「アラブ人が教えるアラブ」・料理教室「一緒に作って食べるアラブ」 招待学生が、SFCでアラビヤ語を学ぶ学生に向けて、アラビヤ語でアラブ・イスラームに関する講義を行った。また、招待学生とモロッコ料理の「ハリラ」や天井などを一緒に作る料理教室も開かれた。
11月2日(水) 14:00~	書道教室 外部の先生をお招きし、招待学生が書道の体験をした。
11月3日(木) 9:25~	アラビヤ語インテンシブ3の授業に参加 SFCで行われているアラビヤ語インテンシブ3の授業に招待学生が参加した。アラビヤ語を学んで半年程の日本人学生と交流し、アラビヤ語学習のサポートをした。
11月4日(金) 14:45~	プレゼンテーション「アラブ人が語るアラブ」 奥田敦教授の講義『イスラームとイスラーム圏/現代文化探究』の中で、招待学生が各自の故郷とその魅力、現在のアラブの情勢に対する考えなどについて、日本語でプレゼンテーションを行った。
11月4日(金) 16:30~	家庭訪問 招待学生が教員や学生の家庭を訪問し、日本人の暮らしを体感した。
11月7日(月) 14:45~	茶道体験 実行委員の中の茶道経験者によるお茶会が開かれ、茶道を体験した。
11月8日(火) 14:45~	アラビヤ語ディスカッション 日本語学習者である招待学生と、アラビヤ語学習者である日本人学生が、本年度統一テーマに関連して「平和と「大きな平和」との違いについて話し合います。また、「大きな平和」を作るためにあなたにできることを教えてください。」という議題のもと、アラビヤ語を用いてグループディスカッションを行い、両者の言語を用いて結果報告をした。
11月9日(水) 11:10~	着付け体験 外部の先生をお招きし、招待学生が浴衣と着物の着付け体験をした。
11月9日(水) 17:00~	表敬訪問 河添健総合政策学部長、村井純環境情報学部長、清木康政策・メディア研究科委員長への表敬訪問を行った。招待学生は自己紹介をした後、日本滞在中の体験やそれに対する感想について話した。
11月11日(金) 14:45~	日本語レポート最終発表会 招待学生と実行委員が協力して作成した日本語レポートの最終発表会を、奥田敦教授の講義『イスラームとイスラーム圏/現代文化探究』の中で行った。各招待学生の問題関心をもち、SFCの教授、学生へのインタビュー調査や、日本人学生とのディスカッションなど、2週間の様々な体験を踏まえて完成させたレポートを、招待学生が本講義の受講者の前で発表した。

※週末は鎌倉旅行、東京旅行、富士旅行へ出かけた。また、上記のプログラム以外は研究会学生と招待学生が協働し、日本語によるレポート作成に計100時間ほど取り組んだり、日本語学習者の副教材とSFCのキャンパス紹介とを兼ねたスキットビデオの撮影を行ったりした。

ASP2016の成果の一部は、11月18、19日に東京ミッドタウンで開催された慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスオープンリサーチフォーラム(ORF2016)にて展示公開され、配布した冊子にも掲載された。また現在は、年度末の完成を目標に、活動報告書とそのダイジェスト版の作成に取り組んでいる。

6. 予算の執行

本活動の招待学生2名分の航空券代として、湘南藤沢学会「研究助成基金」からの助成による予算を執行する。

7. 参考資料(本プログラムの活動が掲載されたwebサイト。なおプログラム詳細についての報告書は現在作成中。)

・SFC CLIP

「アラブ人たちと共々作る「大きな平和」 アラブ人学生歓迎プログラムASP始まる」<https://sfclip.net/news2016102801/>

・毎日新聞

「シリア人学生『国内で希望持ち生活』慶応大で決意発信」<http://mainichi.jp/articles/20161109/k00/00e/040/191000c>

「慶応SFC ASP参加のシリア人医学生、ユニークな視点と鋭い考察を披露 きれいな心戻し終戦を／神奈川」

<http://mainichi.jp/articles/20161112/ddl/k14/100/181000c>

・Kana Loco (神奈川新聞)

「多文化共生へ道を アラブ人学生「歓迎」15年」<http://www.kanaloco.jp/article/212044>

・第15回アラブ人学生歓迎プログラム (ASP2016) 公式web サイト (<http://nafidha.sfc.keio.ac.jp/webASP/2016/>)

・アラブ人学生歓迎プログラム Facebook 公式ページ (<https://www.facebook.com/ASPbyOkudalab/?fref=nf>)

8. 謝辞

本プログラム実施に際し、ご協力いただきました全ての皆さまに心より感謝いたします。なお、本プログラムの予算は2016年度湘南藤沢学会研究助成基金、その他の研究助成、寄付や学園祭での収益などから執行されました。

(参考資料：Kana Loco(神奈川新聞WEB版) 掲載内容より抜粋)

多文化共生へ道を アラブ人学生「歓迎」15年 | カナロコ | 神奈川新聞ニュース



発表後に、談笑する日本、シリア、モロッコの学生ら＝慶応大湘南藤沢キャンパス

差別発言や過激な言動で国粹主義を説く指導者が世界で台頭する中、多文化共生への道を探る草の根活動が慶応大湘南藤沢キャンパス（藤沢市遠藤）で続いている。奥田敦研究室の「アラブ人学生歓迎プログラム(ASP)」。日本とアラブの学生らが共に学び、15年目を迎えた。11日には、シリアやモロッコの学生らが日本語で研究成果を発表。「人種や民族の違いを乗り越え、人間として共に生きよう」と呼び掛けた。

「イスラムでは、人への気遣いや思いやりが大事です。シリアの街の汚さを見ると、人々がイスラムの教えを忘れてしまっていると感じます」。発表会の壇上で、シリアの大学生ハーリド・ハタビーさん(23)はマイクを握った。

テーマは「内も外もきれいに〜シリアと日本の街と家〜」。大学があるアレッポは空爆を受け、母国は紛争状態にあるが「アレッポは幾度となく存亡の危機にさらされてきた。その度に民衆の手で立ち直った」。日本人の学生らを前に「一人一人が心をきれ

いにすれば街はきれいになる。何もやらないより自分が実践し、身近なところから考えを広げたい」と語った。

2002年にスタートしたASPで引き継がれてきたのは「アッサラームアライクム(あなたがたに平安あれ)」の精神だ。イスラム教徒の日常的なあいさつだが、国家間や民族間に限った平和、平安だけでなく「誰もが排除されることなく、人間として尊重し合う」という意味が込められているという。

モロッコ人学生のハディージャ・カップファーさん(29)は「イスラム教徒やアッラー(唯一神)の教えを日本人は理解できないと思っていた。でも、それは固定観念だった。プログラムで学ぶ合うことで、(人間として尊重し合うという)アッラーの教えを理解できた」と笑顔を浮かべた。

ASPには今年まで7カ国、70人の学生が参加。奥田教授は「それぞれの立場を超えて、人としてつながっていく。共に生きる社会をこれからも目指していきたい」と話している。